

第1回

9/8
(日)

万葉集のことばを味わう

講師：元鳥取県教育長
中永廣樹

第2回

9/21
(土)

情報を伝えることば

講師：新日本海新聞社
記者 尾上明

第3回

10/12
(土)

方言からみる倉吉

講師：鳥取短期大学国際文化交流学科
教授 岡野幸夫

第4回

10/27
(日)

ひとつのことば
「手話言語」

講師：公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
事務局次長 戸羽伸一

第5回

11/9
(土)

知の拠点 図書館

講師：鳥取県立図書館
館長 網浜聖子

市外研修

10/17
(木)

ことばで伝える現場

行き先：新日本海新聞社 本社

「ことば」の 魅力に迫る

第1回講座には開講式を、第5回講座には閉講式を行います。

時間：13:30～15:00（市外研修9:00～12:30）

会場：倉吉交流プラザ 視聴覚ホール

受講料：各回500円（大学生以下無料）

年間パスポート1,000円

※県民カレッジ連携講座です

- ◆全5講座に参加された方に“皆勤賞”として賞状を授与！
- ◆パスポート会員には、資料を綴じるフラットファイルをプレゼント！

「ことば」の魅力に迫る

時間：午後1時30分～3時
定員：150名（市外研修は25名）
受講料：各回500円（大学生以下無料）
年間パスポート1,000円
※県民カレッジ連携講座です

今年、平成から令和へと時代が変わり、新元号は初めて日本の古典（万葉集）から選定されました。「ことば」を軸に、倉吉・鳥取の歴史や文化などについて知り、生活する上で欠かせない「ことば」について、改めてその魅力を感じてみませんか。

9/8

(日)

13:30～15:00

倉吉交流プラザ

万葉集のことばを味わう

中永廣樹（元鳥取県教育長）

新元号の出典元である奈良時代に編まれた万葉集。因幡国の国守を務めた大伴家持が編纂したとされており、梅花の宴の序文の作者としては、大伴旅人や山上憶良らが挙げられています。新元号令和や鳥取県ゆかりの万葉歌人の歌も取り上げつつ、万葉集に詠まれた歌のことばに焦点を当てお話しします。

9/21

(土)

13:30～15:00

倉吉交流プラザ

情報を伝えることば

尾上明（新日本海新聞社 記者）

日々、世界や日本、地域で起きている事柄を伝えてくれる身近な情報源である新聞。鳥取県でトップシェアを誇り、各地の販売店の記者が地域ニュースを発信するという独特の方式を実施しています。新日本海新聞社の記者を講師に迎え、情報を伝えることばから新聞記事の読み解き方などをお話しします。

10/12

(土)

13:30～15:00

倉吉交流プラザ

方言からみる倉吉

岡野幸夫（鳥取短期大学国際文化交流学科 教授）

方言を話す人が減っていると言われる現代ですが、生活の中でまだまだたくさんの方言を話されているのではないのでしょうか。方言には古いことばが残ると言われています。鳥取や倉吉の方言の特性、ルーツを読み解きながら、暮らしに息づく方言についてお話しします。日常の何気ないことばの魅力に迫ります。

10/27

(日)

13:30～15:00

倉吉交流プラザ

ひとつのことば「手話言語」

※手話通訳あり

戸羽伸一（公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 事務局次長）

鳥取県では全国に先駆け、「鳥取県手話言語条例」が制定されました。手話を言語として認め、手話がろう者と聞こえる人との架け橋として、誰もが暮らしやすい社会を実現することを目的としています。手話の成り立ちや構造について紹介し、鳥取県や倉吉市での取り組みなど、伝達手段としてのことばのひとつである手話についてお話しします。

11/9

(土)

13:30～15:00

倉吉交流プラザ

知の拠点 図書館

網浜聖子（鳥取県立図書館 館長）

鳥取県の図書館は全国でも先進的な取り組みを行っており、県立図書館と県内市町村図書館のネットワークが構築されています。ことばの中でも文字・書籍を扱う図書館の使命や役割について紹介します。また、今年開館30周年を迎える倉吉市立図書館がどのように生まれたのか、鳥取県の図書館の歴史とともにお話しします。

10/17 (木)

9:00～12:30

ことばで伝える現場

研修先：新日本海新聞社 本社

※要申込み・先着25名

市外研修

パスポート会員特典

何回でも受講可能！

1回500円の講座・市外研修を何回でも受講できます。